

2019 奥多摩町給水支援 活動報告書

NPO法人 自然災害から生命を守る会

〒168-0074 東京都杉並区上高井戸1-5-17-302

電話：03-3306-6841 FAX：03-3306-6843

E-mail：info@saigai-mamoru.com

ホームページ：http://www.saigai-mamoru.com

1 [支援先決定までの経緯]

当法人は、去年6月の西日本豪雨の時に被災された住宅の家具等の片付けや、床下に侵入したドロの除去等の支援を実施しました。当法人は東日本大震災以来、主に焼き芋やアイスクリーム等の食糧援助に力を注いできましたが、西日本豪雨災害支援の時に、断水された方々の生の声を聴くことができました。その声に応えるために当法人は、民間の組織として水の補給支援は微々たる程度しかできないとしても、今後、災害発生時に水の補給も出来るようにならなければならないと考え支援体制を整えました。当NPO法人が支援できる方の数は限られますが、それでも、行政や自衛隊が実施する大型給水ではできない、狭い道を登っていくことや、体が悪く家から出られない方には直接玄関先まで出向いて補給することができますし、タンクに水を補給することが出来ればピストン輸送も可能なので、お役に立てると考えました。

9月、関東に上陸したものとしては観測史上最強クラスの台風15号により千葉県を中心に甚大な被害がでましたが、この時は残念ながらいろいろな事情で支援が出来ませんでした。今回の19号の時に、東京都奥多摩町で道路陥没により孤立した集落を支援するために自衛隊がヘリコプターで食料や水を補給しているというニュースや、ひむら浄水場から川井地区までの一帯が断水しているという情報を得て、奥多摩町に対する給水支援を実施することになりました。

2 [支援活動の概要]

①支援場所	東京都奥多摩町 小丹波地区及び棚澤地区
②支援物資	飲料用水
③実施日	10月16日 15:00から21:00まで 17日 12:00から18:00まで
④支援参加者数	10月16日 当NPO法人会員10名 10月17日 当NPO法人会員 6名
⑤支援参加車両数	10月16日、17日共に 3台 給水用車両 2台 連絡調整用車両 1台

3 [支援活動詳細]

〈10月16日(水)〉

奥多摩町と調整し、給水支援を15:00から21:00まで実施することに決定した。

15:00	小丹波地区にて給水開始 給水車両1台 担当者4名
同	棚澤地区にて給水開始 給水車両1台 担当者4名
同	行政との連絡調整や2地区間の連絡調整及び水の補給場所の確認等 車両1台 担当者2名
18:30頃	棚澤地区で給水を求める方が来られなくなったので、担当者が小丹波地区に合流 給水車両が青梅市の給水補給所にて水を補給
21:00頃	小丹波地区にて給水支援終了

〈10月17日(木)〉

奥多摩町から、17日は給水支援を12:00から18:00まで実施してほしいとの要請を受けて、12:00から実施することに決定した。

11:40頃	青梅市の給水補給所に到着
12:00	小丹波地区にて給水開始 給水車両1台 担当者2名
同	棚澤地区にて給水開始 給水車両1台 担当者2名
同	行政との連絡調整や2地区間の連絡調整等 車両1台 担当者2名
16:00頃	棚澤地区で給水を求める方が来られなくなったので、担当者が小丹波地区に合流

18:00頃 小丹波地区にて給水支援終了

4 [給水支援数及び給水量]

10月16日(水)

小丹波地区	延べ50名	800リットル
棚澤地区	延べ15名	300リットル

10月17日(木)

小丹波地区	延べ30名	400リットル
棚澤地区	2名	50リットル

2日間合計	延べ97名	1550リットル
-------	-------	----------

5 [後記]

奥多摩町は多摩川溪谷沿いに集落が立ち並び、その為、各集落から奥多摩街道や吉野街道に出るための道路は狭く急な坂道が多く、奥多摩町役場は2か所の固定地点での給水と各所を移動しての2ルートの給水支援を実施されました。また、東京都水道局の職員の方達の頑張っておられる姿も拝見致しました。当法人は2か所での少しばかりの支援でしたが、特に小丹波地区は坂が急なので、車で来られる方がほとんどでしたが、近くの方がご家族でポリタンクを何個も抱えながら来られたり、「急な坂を上っていかねばならないので、小さなポリタンクで何回も往復するんです。」、「トイレに流す水が無くて」、「風呂に、はいれなくて」と本当に辛い思いをされているお話を直接お聞きすることができました。当法人の担当者が水タンクを運ぶ手伝いもしましたが、お年寄りだけの家やお体の不自由な方の家には、やはり誰かが持つて行って差し上げないといけないとつくづく思われました。

今回も当法人としましては、規模は小さくとも支援活動を通して被災者の皆様方が大変喜んで下さる姿や感謝の言葉を頂き、今後もこの支援活動を継続していけるよう努力しなければならない改めて思われました。

以上